

平成 22 年度第 3 回高津区区民会議（摘録）

日 時 平成 22 年 12 月 14 日（火） 午後 6 時 00 分

場 所 高津区役所第 1 会議室

1 出席者

- (1) 委員 木村委員、佐藤委員、吉田（豊）委員、長谷川委員、関口委員、安達委員、井坂委員、伊中委員、笹子委員、大内委員、富田委員、坂本委員、河村委員、金委員、仲村委員、鈴木委員、川邊委員、吉田（知）委員、
- (2) 参与 小川参与
- (3) 行政 船橋区長、栗山副区長、星区民サービス部長、大塚保健福祉センター所長、奥山保健福祉センター副所長、鈴木こども支援室長、加藤道路公園センター所長、河野橋出張所長、上野市民税課担当部長、中村総務課長、安藤地域振興課長、新井地域振興課担当課長、昼間生涯学習支援課長
- (4) 事務局 八木課長、佐藤担当係長、星担当係長、高橋主任、塩沢職員
- (5) 傍聴者数 8 名

2 次 第

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 企画運営会議における審議状況について
 - (2) 学習会の振り返り
 - (3) 今後の調査審議の方向性について
 - (4) その他
- 3 閉 会

1 開 会

委員出欠状況の確認、区長挨拶及び委員長挨拶

2 議 事

- (1) 企画運営会議における審議状況について

資料 1 について伊中委員より説明。

佐藤委員長 企画運営会議における審議状況について、ご意見があるか。

説明のとおり了承。

- (2) 学習会の振り返り

資料 2 について事務局より説明。

佐藤委員長 学習会の振り返りについて、感想、ご意見等があるか。

坂本委員 町会の加入率について。今、民生委員として活動している中で、特にマンション等では協力が望めない現状にある。町内会に加入することが附帯条件になっているマンションもあるが、町会加入の必要性を感じてない住民が多い。

笹子委員 自分は町内会に加入はしているが、市民活動団体で活動しているので、町内会のイベントにはほとんど参加できていない。何とか市民活動団体と町内会が一緒にできるような接点を持てたらよいと思う。

金委員 キーコンセプトとして「連携」と「コミュニティ力」という言葉が出ているが、各地域にある町会はその地域特色がある。例えば防災1つとっても、水が出るところもあれば、そのことを考える必要もないところもあるわけで、やはりそれぞれ地域地域の問題をそれぞれの地域の人が、特にその地域の町会のそういうことをやっている方が具体的な問題の提起をしてほしい。問題を共有化することで解決策に向けた展開が考えられるのではないかな。

吉田（豊）委員 加入率に関連して、一戸建てが小規模集まった住宅区域の住民はほとんど町会に加入していない。日中は不在のため町会の必要性を感じていないようであるが、住宅に関するトラブルで町会に対策を求め入会した例もあるので、必要感があれば行動に結びつくと思う。特に子育て中の母親などは具体的な要望も多いと思うので、ぜひ町会に入会して声を挙げてほしい。

伊坂委員 学習会に参加した感想として、大変満足という意見があった一方で、物足りない等の意見もあるようなので、そのあたりについて議論ができたらいいのではないかな。コミュニティを考える上での出発点の分析は把握できたが、その先に関しての示唆がなかったのだから、ここは考える必要があると思う。また、市民活動と町会がうまく連携し、相乗効果があればよい。それらも含め、さらに検討する機会があればよいと思う。

佐藤委員長 企画運営会議の中でも、必要なら学習会を再度開催したらどうかという意見も出ていた。

説明のとおり了承。

（3）今後の調査審議の方向性について

資料3、資料4について事務局より説明。

佐藤委員長 企画運営会議のたたき台として出ている検討テーマのタイトルは「新しい形のコミュニティづくり～地域でつながる」としたが、このタイトルについてご意見、ご質問等があるか。

金委員 「地域で」ではなく、「地域が」ではどうか。

吉田（豊）委員 以前、「新しい形」というのは抽象的過ぎるという意見を出させていたが、今後、中身を見ていき、各論のところ具体的に絞り込んでいくということで納得した。タイトルは、たたき台のとおりでよいと思う。

吉田（知）委員 コミュニティの構成員から考えると、「地域とつながる」がよいのではないかな。

井坂委員 助詞によって意味合いが変わってくると思う。「地域で」は、その前に「市民

が」とか「住民が」という主語があり省略されている。「地域が」では、地域そのものがつながるというイメージになり、かなり意味が変わってくる気がする。

木村委員 「新しい」と文言を入れると、今までのものはどうだったのか問われる可能性がある。企画運営会議では、この点はどのように解釈されたのか伺いたい。

笹子委員 「つなげる」ではなく「つながる」というのがよい。地域でつながっていこうという自分の気持ちを各々が持てたらよいと思うので、「地域でつながる」がよいと思う。

伊中委員 「地域が」「地域は」とすると、主語は「地域」と限定されてしまうのではないかと。主役は地域で生きる人々であるという意味でも「地域で」がよいと思う。

「新しい形のコミュニティづくり」についても、いろいろな課題を新しいつながりをつくる形で解決していきたいという意が含まれている。町会に関わった人々も課題を感じており、新しいつながりをつくらうという意識はあるので、市民活動団体も含めて、新しいつながりをつくり課題解決を図るという意味で「新しい」という文言を入れたというのが企画運営会議での議論である。

木村委員 「新しい」は、従前の形を全く変えてしまうイメージを与えてしまうが、町会については、これまでも町会として広い範囲で活動してきているので誤解のないように願いたい。

吉田（豊）委員 「人々が」や「私たちは」という主語がつくとすれば、「地域でつながる」、「（私たちは）地域とつながる」となるので、助詞は「で」か「と」が望ましいと思う。

鈴木委員 私は「に」だと思っている。市民活動をしながら、地域を知ることと同時に、町会、地域にフィードバックするような形で地域の問題を考えていこうという問題提起をしている。町会というのは主たる目的ではなくて、まずは知的インテリジェンスのところで活動してもらい、最後は町会で活動するという形になったらいいと思っている。最初から「地域で」あるいは「地域と」という形で拘束していくのはいかがなものか。

佐藤委員長 タイトルに関するまとめとして、助詞によって意味合いが違って来る。とりあえずは提案された内容でまとめてよいか。

大内委員 今、高津はいろいろマンションが建ち、外国人の入居者も増えてきている。そういう点からも新しい形のコミュニティになってくるのではないかと。子育て中の保護者、老人等は、個々にはつながっているが、世代間交流という形に持っていくには、やはり地域でのつながりが重要であり、「地域でつながる」でいいのではないかと。

安達委員 町会、町会以外の既存の団体も含め、やり方等、変わらなければいけないのではないかとという意味で、「新しい形」「地域で」というのはよいと思う。

河村委員 いろいろな主体が顔が見えない中で、どう顔の見える関係をつくっていくかということも議論していければよいと思う。

佐藤委員長 「新しい形のコミュニティづくり～地域でつながる」というタイトルでまと

めさせていただいてよろしいか。

説明のとおり了承。

佐藤委員長 資料4、ステップ3の5「論点の絞り込み」に移る。キーワード「つながる」、あるいは、どんな場面でつながるかということを含めて議論してきたが、さらに深めていきたい。ご意見はあるか。

木村委員 世代間交流が相当重要になってくるのではないか。子育て世代の比較的若い層にも積極的に町会に加入していただき、町会の比較的高年齢の層との世代間交流をしていく必要があると思う。

吉田（豊）委員 漢字の使い方で、以前は「知縁組織」となっていたが、今回は「地縁組織」となっている。どちらがいいのか。

伊中委員 「知縁」は、町会や地元の人間関係だけではなく、いろいろな意味での知り合いになったという意味で使っている。たたき台のほうで使っている「地縁」は、今まである町会の人と共にやっていくということになっていて、企画運営会議のときには、テーマを持ってつながりましょうという発言を示唆している。たたき台のほうは、地元の方々との活性化が必要であるということで意味が違う。

事務局 確かに「地縁」「知縁」、いろいろあるという話題は企画運営会議でも出ていた。ただ、5ページの（事務局）とあるところに出てくる「知縁」は「地縁」と訂正させていただきたい。

吉田（豊）委員 「地縁組織の活性化」と「分野別団体との連携でつながる」の背景の認識度が納得しかねる面がある。この中には、町内会組織のようなものを今後活性化させるという意味が含まれているように感じる。「分野別団体との連携」というあたりを改良していくのが新しいコミュニティという意味を持つていくかと思うが、自分は町会関係者であり、町会についてのマイナス面は極力反対なので、何となく納得できないイメージがあるということが少し危惧される。したがって、「知縁」のほうがいいのではないか。

佐藤委員長 議論している中では、「地縁」ということで承知していただきたい。分野別で町会の話があったが、意識し過ぎると議論に支障が出るので、母体のところはあまり意識しないで議論していただきたい。

伊中委員 世代間交流のイメージで、現在、公園でフリーマーケットや公園体操等を行っているが、そのような世代間の緩やかなつながりが都市型公園には合っていると思う。地域にある場をいろいろな世代が共有しながら時間を使っていくことが「つながる」のイメージではないかと感じている。

河村委員 子育てグループの体験から、子育て時期の母親たちは地域とのつながりを求めているように思う。ニーズはあるけれども、町会と結びつくツールがなかなかないのが

現状であり、公園も1つの交流の場になり得るのではないか。

鈴木委員 高津市民館等を利用して、さまざまな形で交流は行われていると思う。そういう地域の活動を総合し、若い世代からの交流を中心として、積極的に情報提供されたらよいと思う。

金委員 高津区地域教育会議に子ども会議というのがあり、ここ数年、子どもたちも世代間交流を活動を通して意識し始めてきたので、今後も応援していきたい。

富田副委員長 新しい形のコミュニティのポイントとしては、要援護者支援というよりも、広く高齢者の見守りネットワークづくりというのがよいと思う。

仲村委員 子育てや親の介護など、地域において顔の見える関係があれば非常に助かり、心強い。「見守りネットワーク」という言葉も、子どもやお年寄りに限定せず、緩やかなつながりということで大変よいと思う。人と人とのつながりということでは、PTAや地域教育会議等、中間層の人たちの役割は大きい。

坂本委員 公共施設に行くにも大変不便な地域がある。そのような地区にも交流できる施設をつくってほしいという要望があり、また、日曜に利用できる施設のニーズも高い。世代間交流の場づくりという点では課題である。

佐藤委員長 交流の場づくりを考えると、アクセスという点も大事ではないか。

伊中委員 小さい町村だが、少人数で集まれる広場的な場を設けている町村もあり、届出をすることで運営補助的な予算をもらえる仕組みがある。各地区で広場という呼び方を統一し、多様な広場をつなげることができたらよいと思う。広場というのは場所ではない。人が5人以上集まれば広場と呼ぶということにして、予算もつけて、多様な広場があることによってそれをつなげることができるという考え方だ。多様なつながりをつなげていくという方法をとっていくと、重層的にモノが交換できるというふうには思う。ぜひ、広場という考え方も念頭に置いて議論してほしい。

佐藤委員長 学校施設の一部開放について、行政側の考え方をお聞きしたい。

船橋区長 川崎市では、第3期の実行計画の中で、できるだけ学校を活用しようという話になっている。学校の一部開放については、学校長の考え方によって温度差がある。セキュリティの問題もあるので、学校長会や区の校長会等、いろいろな場で相談できれば交通整理ができるのではないか。市長も学校利用を促進していく方針であり、学校以外の施設についても交流の場となっていけばよいと思う。

大内委員 世代間交流をするための場づくりということで、一番集まりやすい場所はやはり公園だと思うが、現在は公園を使う際の制約が多く、子どもたちも敬遠しがちになっている。若い層とお年寄りの年代では考え方にギャップもあるが、交流を深め、お互いをわかり合うことが大事ではないか。

事務局 高津区の主要な取組として、公園を活用したコミュニティの活性化事業を来年度以降計画をしている。先行的な取組として1月31日に「公園ミーティング」の開催を予定しており、情報交換、活用のアイデア等について自由に意見交換する予定である。

ぜひ区民会議委員も参加をお願いしたい。

長谷川委員 自分の加入している町会は、役員の平均年齢が40代で、比較的若い層の意見も取り入れ、比較的民主的に活動できていると思う。加入率も高く、若い層も行事等には協力的で、うまくいっているように思う。

金委員 学校・家庭・地域の連携は常に課題に上っており、地域の人たちと子どもの教育について考えていきたいということで、「学校だより」を町会に回している小学校もある。

佐藤委員長 まとめに入りたい。

運営会議のたたき台としてのキーワード「つながる」、ヒト・モノと、どんな場面でつながるかということ、これに付加したいろいろな意見が出された。個人的には、スポーツという視点でつながる、あるいは場づくり、地域との関係という点で議論されてもいいのではないかなと思う。例えば、私の知っている団体では、高津にソフトの親睦を主とする団体がある。男子で2チーム、女子で7チームぐらい、何百人かの方が一堂に会し、多摩川を清掃するとか、あるいは地域のいろいろな行事に積極的に関わるとか、そういうところがある。それらスポーツや文化活動の面でも世代間交流がうまくできれば、違った形で広がりが出るのではないかな。

取り組む論点の絞り込みについては、このキーワードと、あるいはどんな場面でつながるかも含めて、出された意見をもとにして、改めて企画運営会議の中で整理をさせていただきたい。

説明のとおり了承。

(4) その他

資料5から資料9について事務局より説明。

佐藤委員長 報告事項について、ご質問、ご意見はあるか。

安達委員 バーベキューの実験について、近年、河川敷での規制が緩くなった経緯を伺いたい。

事務局 河川敷等は国の河川の特別な地域であり、エリアを区切って市が特定の地域を管理する中で、安全性を確保しながら、ルールに基づいてバーベキューができる地域を定めた中で今回も実験している。河川敷全てがフリーになったというわけではない。

佐藤委員長 どういう経緯で車の進入や火の私用などが許可されるようになったのかというご質問だと思うが。

事務局 調査した上で、正確にお答えしたい。

金委員 川崎市地震防災戦略（素案）について。「川崎市直下の地震」とあるが、川崎に活断層があるのではないかなという恐怖感を覚える言い方なので、これはどのような調査

に基づいて出てきた言葉か教えていただきたい。

佐藤委員長 後日、詳細な資料を出していただきたい。

他に委員のほうから何かあるか。

伊中委員 溝ノ口駅南口の再開発の進捗状況について説明願いたい。

佐藤委員長 事務局のほうで具体的な資料等を用意していただき、委員全員に説明願いたい。

最後に、県会議員の小川議員より感想をいただく。

3 閉 会

佐藤委員長挨拶